

刎頸の友、郭沫若と成仿吾のふれ合いについて(中) 【サマリー】

齊藤孝治

郭沫若の終生の友、成仿吾の故郷は、湖南省の片田舎、現在の同省婁底市新化県琅塘郷で、今も風雪に晒された故居がごくわずかながら残存しています。一族は、知識人の家系であり、祖父成明郁は光緒3年(1877年)の進士に合格し、直隸省の県知事に登り詰めながら清朝の腐敗に愛想をつかした末、帰郷して晴耕雨読の日々に徹し、周囲からは「徳が高く、真っ正直な人」と称されていたほどです。「仿吾」という名は、孫に「自分のように生きなさい」と希望を込めて付けました。成仿吾は、生涯、祖父の命名を裏切らないよう努めたのです。

本文は、彼の人柄を表わした逸話と言えます。